



花園大学 後援会事務局 〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 Tel.075-279-3630 (直通) Fax.075-823-2412

学校と生活と その接続

花園大学学長 磯田文雄

学校と生活の接続

学校と生活との関係について、デュニーは次のように語っています。

「子どもは家庭で学ぶことがらを学校にもちこび、それを学校で利用することができるとして学校で学んだことからを家庭で応用する。子どもをしてかれが学校のそとで学べた一切の経験をたずさえて学校にやってこさせること、そして、かれが日常生活において直接に用いることができるならかものをつたずさえて学校から帰らせよ」と

このような学校と生活の接続を基本にこれまで学校教育は制度設計され、運用されてきました。

しかしながら、現在、学校の側にも生活の側にもそれぞれ大きな変化が生じ、その両者の関係にも深刻な不具合が生ずるようになってしまったのです。

学校は機能的学力を育成する場とは 言えなくなった

グローバル経済の進展に伴い、学校はグローバル経済が求める資質能力すなわちキー・コンピテンシーを育成する場として位置づけられていました。

キー・コンピテンシーは、もともとOECD加盟国のうちでも特にヨーロッパに適合的な資質能力論ですが、それがグローバル経済に必要な資質能力論に変換され、さらにグローバル化の進展により、中国など共産主義国家もキー・コンピテンシーを目標とするに至り、世界の正統な学力観の地位を確立していったのです。

しかしながら、コロナ感染症とウクライナ戦争で、グローバル経済の供給網(サプライチェーン)が壊滅的な打撃を被りました。供給網(サプライチェーン)を再構築しなければなりません、その際には

生活は監視資本主義の下にある

政治の関与の度合いが強まります。特定の国への供給網の依存は政治的に避けられることとなります。また、社会の運営には、経済の視点だけでなく、民族、歴史、文化の視点が重要度を増します。

一方、生活はシヨシヤナ・ズボフが命名した「監視資本主義」の下にあります。「監視資本主義」は、人間の経験を、行動データに変換するための無料の原材料として一方的に要求します。これらのデータの一部分は、製品やサービスを向上させるために使われますが、残りは私たちの行動を予測する予測製品へと加工されます。そして、私たち



花園大学学長 磯田文雄

学校と生活の 接続の見直し

学校も生活も一変してしまいました。これまでの手法の延長線上で「学校と生活」を接続させようとしても無理です。新たな試みが必要です。

大学撰心

後期授業終了後の12月26日(火)、27日(水)の2日間に行われ、大学撰心を実施しました。初日は学内の禅堂での坐禅と横田総長の法話を拝聴しました。翌日は学外に出向き、大本山妙心寺の大方丈での坐禅と諸堂拝観を行いました。約30名の学生・教職員が参加があり、充実した時間を過ごすことができました。また、初日の坐禅終了後には、横田総長と撰心に参加した学生との交流会があり、学生には総長と直接話せる貴重な機会となりました。



前期学位記授与式

9月29日(金)の18時、本学教室ホールにて、2023年度前期学位記授与式が挙行されました。

卒業生は学部生14名。磯田文雄学長から一人ひとりに学位記が手渡されました。学長式辞では「私は人を信じます。特に若者の力を信じています。皆さん、苦難を恐れず、際限のない社会の「大海」へ漕ぎ出して行ってください。」と述べられました。引き続き、山本清文文学部長、福富昌城社会福祉学部長が果たす卒業生に向けての言葉を贈られました。

式終了後、卒業生は栗原正雄学園長と学長を囲んで、記念撮影をしました。



人権週間

第37回花園大学
人権週間報告



▲三輪晃義さん
同性婚に関する訴訟とLGBTQを取り巻く近時の状況



▲石崎立矢さん
メディアから考える「多様性」新聞の伝え方、出来事にツッコもう!



▲藤尾まさよさん
このまちが好きだから～被差別の歴史をもつ地域に生まれて～

2023年度の人権週間は以下のとおり開催しましたので報告をいたします。12月4日の前夜祭では映画「ぼくたちの哲学教室」を上映しました。翌5日からは、藤尾まさよさん(崇仁発信実行委員会代表)「このまちが好きだから～被差別の歴史をもつ地域に生まれて～」、石崎立矢さん(京都新聞社メディア局 読者交流センター長)「メディアから考える『多様性』」新聞の伝え方、出来事にツッコもう!、三輪晃義さん(弁護士)「同性婚に関する訴訟とLGBTQを取り巻く近時の状況」の3本の講演会を開催しました。

昨年度にはロシアによるウクライナ侵攻が、そして今年度はイスラエルとガザとの問題が大きくクローズアップされている中、人権週間が開催されました。それだけでなく、ミャンマーや香港における問題など、世界には解決できない問題が山積みです。そのような中で、私たちに何ができるのか。まずはこれまでの歴史を学ぶこと。今ある現実を知り、目を向けること。さまざまな考え方、立場を受け入れ、対話すること。そして、私たち一人ひとりが考えること、考え続けること。解決困難な大きな問題を前にすると足がすくみ、思考停止してしまいがちですが、一歩一歩、歩みを止めないことが重要だと思います。特に、これから社会にでる学生たちの学びの場である大学においては、自分や社会の在り方を思索する、そのような活動を続けていかなければと、お話を伺って気持ちを新たにしました。

2023年度から、「就職課」は「進路サポート課」に名称変更しました。卒業年次になってからの就職支援だけではなく、入学から卒業までのすべての在学期間中、一人一人の「進路」をしっかりとサポートすること。この名称には、このような意味があります。

進路サポート課

進路サポート課は、学生自身が、自分で考えて行動し、納得のいく進路選択することを目指し、1・2年生からしっかりサポートします。

2023年度から、「就職課」は「進路サポート課」に名称変更しました。卒業年次になってからの就職支援だけではなく、入学から卒業までのすべての在学期間中、一人一人の「進路」をしっかりとサポートすること。この名称には、このような意味があります。

企業・団体での就業体験ができる基礎教育科目「インターンシップ・職業体験プログラム」は、進路サポート課が協働で実施しており、1回生から受講可能です。

また、1・2年生必修科目「学びのナビゲーション」とも連携しています。1回生の「大学入門」では、進路サポートシステム「花☆サポ」(※)への初期登録をしてもらい、まずは進路を考えるスタートラインとしています。2回生の「進路を考える」では、進路サポート課が講義15回中2回分を担当し、いよいよ本格的にスタートする3回生からの就職活動スケジュールや具体的なサポート内容の説明に加え、企業・団体の方をゲストにお招きし、講演いただいています。

2025年3月卒の学生にとって本格的な就職活動開始直前となる2月には、就活サポート講座と就職説明会を開催し、就活の流れやマナー、履歴書の書き方、求人情報の見方などの基本的な内容の講座に加え、本学と連携しているサポート機関や各業界の企業・団体を迎え、サポート概要紹介や業界・企業研究会を開催しました。さらに、オンラインでの説明会・面接を想定した対策講座も開催しました。4月以降は、進路就職状況調査を行い、電話での個別サポートや、ゼミ担当教員と連携した個別対応をメインにサポートを続けます。



進路サポートシステム「花☆サポ」
スマートフォンやパソコンから、求人やインターンシップの検索、個別相談・支援講座参加の予約、各マナーシートのダウンロード、就活準備動画閲覧など、就職活動に必須のシステムです。

地域連携教育センター



「第二回 京都絵本フェスティバル in 花園大学2023」が、花園大学自適館において開催されました。

絵本の読み聞かせを通じて、子ども(と大人)の心を育むとともに、大学と地域(京都市、近隣地域)とのつながり、絵本に関する活動をしている個人・団体のつながりを強化することを目的に、昨年からスタートしました。本学が採択された「学まち連携大学」促進事業の一環として行われております。

京都市内外から、読み聞かせ活動を行う個人・団体6組16名が読み手として参加し、150名以上の来場者を迎

え、たいへん盛況でした。一般的な絵本の読み聞かせのほかに、わらべうたや英語の読み聞かせをするコーナーもありました。本学総長の横田南嶺老師の絵本『パンダはどこにいる?』の読み聞かせもありました。

会場の一角には自由に絵本を読むことができるスペースも設置され、教員の指導のもと、児童福祉学科の学生が、子どもたちのサポートをしていました。



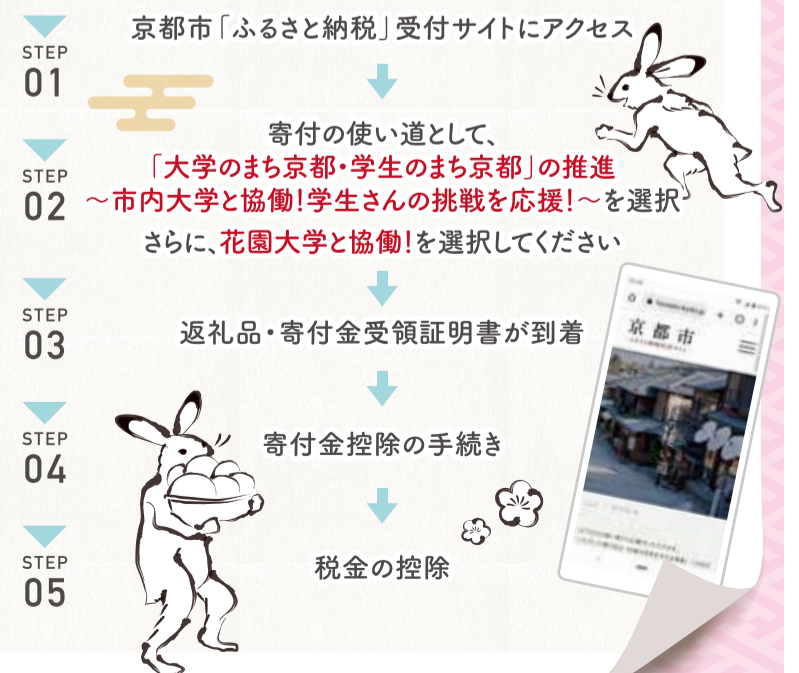
京都市ふるさと納税を活用し、花園大学へご支援をお願いします

2023年4月より、京都市へふるさと納税をしていただくと、翌年度に寄付金額の一部が花園大学へ配分されることとなります。配分された助成金は、本学の地域連携等推進事業に活用させていただきます。花園大学へのご支援をよろしく願いいたします。

詳しくは、京都市ふるさと納税特設サイト (<https://furusato-kyoto.jp/usage/>) をご覧ください。



「ふるさと納税」のお手続きの流れ



京花祭 2023年度



2023年度花園大学学園祭「京花祭」にご来場いただきありがとうございます。また、露店では今年も学

内クラブ・サークル・職員の出店、学外からカレーライスやクレープなどの販売無料でのハンドマッサージ体験があり活気が溢れ、盛り上がっていました。

今年度は昨年の結果から周囲の期待も大きく、学生会「喫茶去」として初めての企画・運営ということもあり、不安があるなか無事開催することができたことは学生会メンバー全員の大

最後にりましたが、京花祭開催にあたりご協力をいただいた学生団体、教職員、協賛企業、地域住民の皆様にご心よりの感謝申し上げます。

花園大学学生会「喫茶去」
舛木 駿介

防災備蓄食品の配布を行いました。

後援会からの支援により購入した防災備蓄食品の入れ替えに伴い、保存期間が迫るものを学生たちに配布しました。また、京都府からも賞味期限が近い災害用の備蓄物資(アルファ化米)をいただき、併せて配布しました。この防災備蓄食品の配布は2021年度よりおこなっており、今回もたくさんの学生たちが嬉しそうに持ち帰っていました。



— 2023年度公開講座 — 禅とところ

ご来場の皆さまの健康と安全の確保、また新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2023年度の「禅とところ」は当面の間、一般の方(科目等履修生・聴講生を含む)の聴講をご遠慮いただく事にいたしました。なお、横田南嶺花園大学総長の講義のみ花園大学ホームページ(<https://www.hanazono.ac.jp>)からご視聴になれます。





硬式野球部

硬式野球部は3月から川崎監督、4月には境田副部長を迎え、大学内の指導者は奥本助監督を含めた3名体制で春季リーグをスタートしました。

3月にはこれまでコロナで実施できなかったキャンプを3年ぶりに実施し、集中的に力をつけることが出来ました。4月には新入生32名を迎えました。春季リーグ戦は全10試合を戦い8勝2敗でリーグ優勝を成し遂げることができました。



硬式野球部

クラブサークル探訪

一夢・目標・輝く学生たち

大学野球選手権では、前号に報告のとおりです。東京ドームで大阪商業大学と対戦しましたが悔しい結果となりました。

春の新人戦を優勝し秋季リーグに向けてミニキャンプや社会人チームとの試合などで経験を積みましたが、秋季リーグ戦中盤で、体調不良者が続出し、びわこ成蹊スポーツ大学に勝ち点を落とし、ついに敗戦。それでも残りの節を勝利し、佛教大学との1戦目に勝利し、2回戦が優勝決定戦となりました。2点先取したものの一歩及ばず5対2で敗戦、7勝4敗で勝ち点3、リーグ2位となりました。

秋季リーグ個人表彰は、敢闘賞を奥田貫太(投手・4回生八幡商業高)、ベストナインを永倉暖也(捕手・1回生京都成章高)が獲得しました。

11月に行われた新人戦は、決勝戦で佛教大学に勝利し春秋連続で優勝することが出来ました。

春に大学野球選手権を経験したことは、大きな経験となりました。安定した投手力の維持と打撃の向上、個人の能力をさらに上げるために、重点的に体幹トレーニングに取り組み、また「栄養セミナー」を通して効果的な食事の摂り方を学び、春季リーグ連覇に向けた準備を進めています。

もちろん、単位取得も頑張ります。全国大会を経験して、皆様の熱い応援が大きな力になることを痛感しました。今後とも応援よろしくお願いたします。

新体操部

新体操部は、今年で創部33年目を迎えることができました。

2023年度も皆様のご支援のおかげで無事に活動を行うことができました。

今年度は、男女共に8月に行われた全日本学生新体操選手権大会に出場をする



ことができました。ミスもあり良い成績ではありましたが、チームにとって「何が足りないのか」何をすべきなのかという他者と比較して様々な課題を見つけていくことができ成長のできる大会となりました。



9月に行われた全日本クラブ選手権大会では、4回生尾上達哉が、個人種目別スティック、リング、ロープ、クラブそれぞれ1位を取り総合優勝という成績を残し、京都市長から「京都市スポーツ賞」を受賞されました。

また、12月に学内で行われている定期発表会では、400名ほどの観客が来場してくださり充実した発表会になりました。

本当にいつもご支援ご協力いただき環境で活動ができています。2024年度は男女共に全日本選手権大会に出場、そして優勝を目指し部員一同精進してまいりますので今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

ラグビー部

ラグビー部は関西大学Bリーグに所属しており、少ない部員数ではありますが上位進出を目標にしています。過去に数回Aリーグとの入れ替え戦にも挑戦しましたが勝利をつかむことが出来ず、現在はBリーグの下位にいる状況です。

今年の秋季リーグ戦では慣れないポジションにつき選手もいたため、ミスが目立ち思うような攻撃が出来ない試合展開となり、敗戦が続く苦しい結果となりました。そして、1次リーグは1勝4敗の5位通過となり、下部リーグとの入れ替え戦の順位決定戦に回るようになりました。順位決定戦でも1次リーグでの課題が修正出来ておらず、同じような試合展開となり、1勝1敗で下部リーグの4位チームを相手に入れ替え戦を行うことになりました。この入れ替え戦ではミスが少なく、いい攻撃ができたこともあり、大差で勝利することが出来ました。

次年度は若干部員数が増えるもの、他大学に比べるとまだまだ少人数のため、けがの無いように上位を目指してしっかり調整していきたいと思えます。



剣道部は4回生7名、3回生6名、2回

生6名、1回生6名の計25名で活動しています。他校の強豪校に比べて部員数は劣りますが、少数精鋭で日々の稽古に励んでいます。本年の目標も全日本学生剣道優勝大会への出場で、男女共に出場できるように努めていきます。



昨年度は、2019年度から始まったコロナウイルスも収束していき、他府県への遠征や合宿、他校との練習試合が可能になりました。春には岐阜へ、夏には福井、東京など様々な地で全国の強豪校と稽古することができました。その結果、京滋大会では男女団体共に3位、京滋新人大会では男子団体3位、関西大会の個人戦では男子が1名上位入賞し、全日本学生剣道優勝大会へ出場しました。関西大会の団体戦では、男女共にあと一歩のところまで敗れ、全国大会への切符を目前で逃してしまいました。しかし、その瞬間から全員が来年こそはという強い意気込みを持ち、その後の稽古に励みました。

4月には関西個人、5月には西日本大会、6月には京滋大会と新年度から大きな大会が続きますが、どの大会でも上位入賞を狙えるよう、より一層チーム一丸となり大会に挑んでいきたいと思えます。今後も剣道のみならず、勉強、礼儀にも力を入れ、全日本学生剣道優勝大会を目指して精進していきます。皆様の応援をよろしくお願ひ致します。

令和5年度「京都市スポーツ賞」大賞を受賞

2023年12月26日(火)、立命館大学朱雀キャンパスにて、令和5年度「京都市スポーツの殿堂」及び「京都市スポーツ賞」の表彰式が開催され、本学より杉本瑞夏さん(児童福祉学科4回生)と尾上達哉さん(日本文学学科4回生)が大賞を受賞しました。

杉本 瑞夏さん(写真左)

競技: トライアスロン
大会名: ワールドトライアスロンエイジグループ 世界選手権(2023/ポンテペドラ)
成績: 女子20-24歳 第2位

尾上 達哉さん(写真右)

競技: 新体操(男子)
大会名: 第8回全日本男子新体操クラブ選手権大会
成績: 個人総合 優勝

